

牛群検定ビッグデータ（その42） ～ 月別初回授精受胎率の推移～

牛群検定のビッグデータからわかるいろいろなことを本コーナーで紹介していきます。

前回は、分娩間隔に影響する繁殖成績の推移を示しました。今回は前回示していなかった受胎率について、図1に都府県の初回授精受胎率の推移を、図2に北海道の初回授精受胎率の推移を示しました。

牛群検定で報告された交配種雄牛略号等から確認できた、ホル通常精液、ホル性選別精液、ET、その他^{*}の4区分で示しています。

※その他には、F1のほか、ホルスタイン種と判断できなかった交配が含まれます。

都府県では毎年、北海道でも猛暑であった2023年には暑熱の影響（受胎率の低下）がみてとれます。また、夏場でもETの受胎率が高いことがわかります。

春分娩が増えることで、各月の分娩頭数が均等になり、酪農経営や飼養管理の改善につながります。夏場の繁殖成績向上も重要な暑熱対策です。牛群検定の成績表で繁殖成績を確認しましょう。

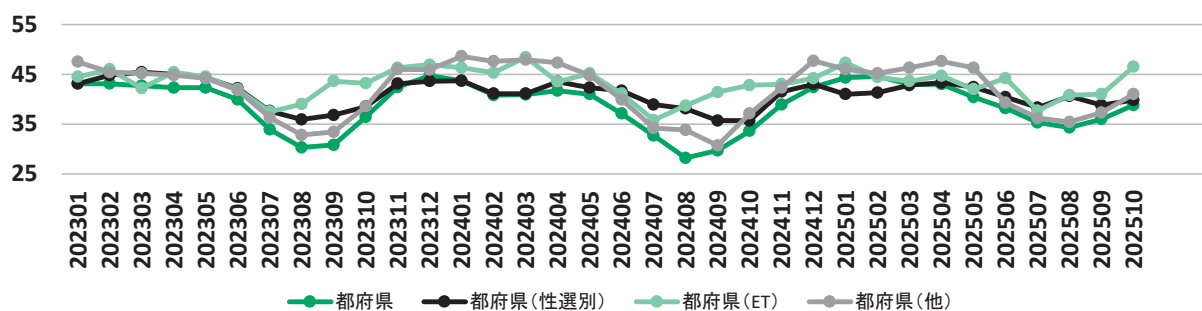


図1 初回授精受胎率の推移（都府県）

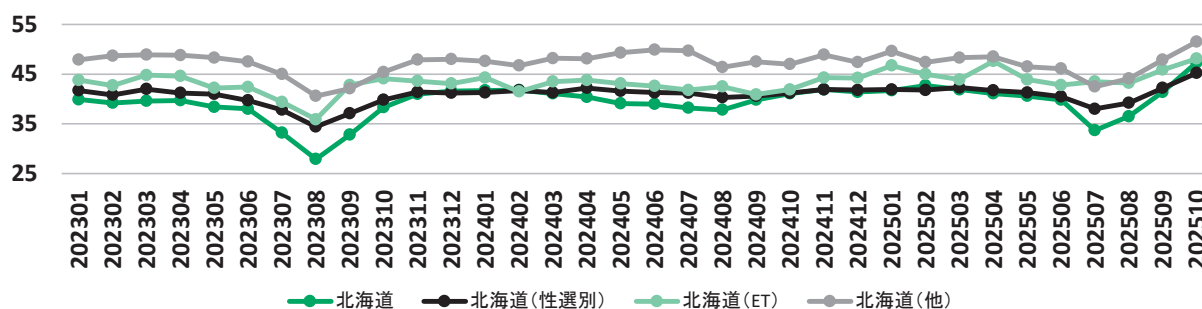


図2 初回授精受胎率の推移（北海道）